

様式2

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 伊豆の国市立大仁中学校

校長名 相馬 美樹子

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	1年生・144名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）行事名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>世界中の注目を集め、さらに身近な場所でも競技が行われる東京2020大会は、生徒にとって大変貴重な機会となる。オリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関して学ぶことで、さらにオリンピック、パラリンピックを身近に感じ、スポーツを通して心と体をきたえ、世界中の人と交流して平和な世界を築いていこうとする精神を育成する。</p> <p>また、オリンピックやパラリンピアンと交流をしたり、映像を見たりすることにより、自らの夢に向けて何事にも挑戦する意欲を高めるとともに、失敗してもあきらめない強い意志を育てる。</p>
5 取組内容	<p>10/10 基礎的知識の理解（1時間） オリンピック、パラリンピック憲章、歴史、競技種目、出場選手、参加国などについて、DVDを利用して意義や歴史を学ぶ。</p> <p>10/16 オリンピックについて学ぶ（1時間） オリンピック選手による講話（またはDVD視聴）により、自分の生き方を見つめる。</p> <p>10/17 パラリンピックについて学ぶ（1時間） 種目やルールについて考えたり、VTRを見たりすることで、パラリンピックに対する理解を深める。</p> <p>10/24 パラリンピアンとの交流（2時間） パラリンピアンとの交流を通して、目標を持ち、努力することの大切さに改めて気付くとともに、自分に置き換えて考え、これからの生き方を見つめ直す機会とする。</p>

	<p>10/31 パラリンピックの競技を体験する（5時間） 体験を通して、違いを肯定し、自然に受け入れ、助け合える態度を育成する。（ブラインドサッカー、シッティングバレー、ゴールボール、陸上）</p> <p>11/ 6 活動の振り返り（2時間） これまでの学習・体験を振り返り、これからの生き方や東京2020大会への関わり方について考えをまとめる。</p> <p>11/14 活動の振り返り（1時間） これまでの学習・体験を振り返り、これからの生き方や東京2020大会への関わり方について考えをまとめる。</p> <p>11/17 パラリンピアンとの交流（2時間） パラリンピアンとの競技を観戦し、その姿勢を肌で感じることにより、これまで以上に関心を深める。また、ドイツやポーランドなど5カ国の代表選手と英語で質問をしたり日本文化の紹介をしたりすることにより、国際的な視点を身に付ける。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>パラリンピアンと交流をしたり、映像を見たりする活動の振り返りでは、「私も向上心をもって取り組みたいです。」や「自分も逃げずに、自分に厳しくしていきたいです。」など、夢に向かって努力をする態度や困難を乗り越えやり続ける意欲の高まりが見られた。また、ドイツやポーランドなどの選手とのふれ合いを通して、国際的な視野に立って日本やオリンピック・パラリンピックについて考えることができた。</p> <p>まとめの活動では、「オリンピックの歴史をもっと知りたい。」「オリンピック・パラリンピックを支援するために自分ができることは何だろう。」や「この大会を通して伊豆の国市の良さを伝えるにはどうしたらいいのだろうか。」など、全員の生徒が自分の課題を設定し、「伊豆の国市に点字ブロックを増やしたい。そのために募金活動をしたい。」など、自分の考えを画用紙にまとめることができた。また、文章からは、実際にブラインドサッカーやゴールボールを行ったから分かる不自由さや、その理解からくる障がい者との共生についての思いが読み取れた。</p> <p>オリンピック・パラリンピック学習を通して「オリンピック・パラリンピックに興味があるか。」という質問をしたところ、「ある。」と答えた生徒は、事前47%、事後60%となった。また、「全くない。」と答えた生徒は、事前5%、事後1%となった。また、「もっと知りたいですか。」という事後に行った質問に対しては、89%の生徒が「もっと知りたい、もう少し知りたい。」と答えた。このことから、生徒たちは2020大会に主体的に関わっていくことが予想される。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>平成29・30年度と国立教育政策研修所教育課程研究センター関係指定事業受け、道徳教育の推進に努めている。そこで、オリンピック・パラリンピックムーブメントの目的と本校の学校教育目標「夢を拓く」の三本柱を軸として計画を立て、1時間ごとを意図的に活動できるようにした。</p> <p>また、体験的な学びの機会を設けたり、自分なりに課題を発見し解決する活動を取り入れたりすることで、主体的で深い学びとなるようにした。</p>

8主な課題等	<p>現役のオリンピック・パラリンピアン講師の確保が最大の課題だと考えられる。東京2020大会が近づくにつれ、練習や大会等で忙しくなるとおっしゃられていたので、今後は本年度以上に確保が難しくなると考えられる。また、生徒たちの表情から全体での講話より小グループで会話・質問をしたり、競技体験をしたりする時間の方が、教育効果が高いと感じられた。そのような要望に応じて頂ける講師の方が少ないことも課題であると考えられる。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>オリンピック・パラリンピックの意義や歴史についての学習、ブラインドサッカーやゴールボールなどの体験活動は来年度も実施可能だが、交流会は講師次第である。交流会の有無が教育効果を左右すると思われるので、そのあたりを新1年部の学年部会で検討していきたい。</p>